

としょぶらり

米子高専図書館報

ISSN 1344 - 5634

第 99 号

平成27年7月7日 発行
米子工業高等専門学校図書館

教養と読書

校長 齊藤 正美

「教養とは何か」という問いに答えることは、実はたいへん難しい問題です。教養がある人とは、ときに高い学歴をもった人であり、また博学であると言われる人であり、あるいは人格高潔で人間としての品位が高い人であると考えられるかも知れません。しかしながら現実には、学歴が高く、本を読む時間がたつぷりとあり、品位を高めるための経験や修行を積むための時間的・経済的余裕がなければならぬとなると、たいがいの人が「教養がない」ということになってしまいます。何か変です。では、誰でも身につけることができる教養というものはあるのでしょうか。

私は、以前卒業式の式辞の中で「真の教養とは、自分が社会の中でどのような位置にあり、社会のために何ができるかを知っている状態、あるいはそれを

知ろうと努力している状態」であると述べました。この言葉は、社会学者であり、一橋大学学長であった阿部謹也先生の本から引用しました。多くの人は、社会の中で何らかの職業に就き家族を養い忙しさの中で毎日を送っています。学生諸君もいずれ技術者や研究者としてあるいは企業人として社会の中で（忙しく？）生きることになります。そのような我々は、上述の阿部謹也先生の言葉にたいへん勇気づけられます。教養とは「人間と人間社会のことを正しく理解し、得られた知識や知恵を自分の職業と人生に活かすことができる力」と定義すれば、誰でもその努力をしさえすれば身につけることができると考えます。

本の中には、先人の経験や知恵、賢人の思考の足跡、人間の歴史とそのダイナミクス、生きることのすばらしさなどがたくさん詰まっています。これらは、職業人・社会人としての自分が持っている（あるいは持たざるを得ない）問題意識を刺激し、それを解決してくれる力となります。これが、誰でももつことができる「生きた教養」であると私は考えています。

教養を高める為には、出来るだけ多くの本を読む事が一番です。

目次

教養と読書	1
新任教員 図書に関する座談会	2
読書感想文コンクール募集案内について	3
新任教員おすすめの本	4
2014年度学生表彰文化系クラブ等活動の紹介(放送部、新聞部、科学部)	5
文化系クラブ活動・同好会の紹介	9
専攻科生の推薦本を交流プラザに展示・学生図書委員一覧	10
図書館統計	11
文化セミナー、読書会の紹介	12

新任教員 図書に関する座談会



鈴木先生



渡邊先生

熊谷図書館長: それでは皆さんが今までに読んで心に残った本を教えてください。

渡邊先生: 私は『人を動かす』(デール・カーネギー著)です。これは人間関係について書かれた本で、以前私が専門学校で非常勤講師をしていたときにスピーチの授業の教科書として使っていました。そのときの学生にとっても感謝されたのを覚えています。

熊谷館長: この本が、学生の心に響いたのはなぜですか。

渡邊先生: この本を読んで知った大切なことは、当然なことですけど、「相手に誠実な関心をよせること」また、「もし成功に一つの秘訣があるとすればそれは自分の観点から物事を見るのと同じように、他人の観点から物事を見ること」だと。改めてそう示されると、学生の心に響くものがあったようです。ぜひ高専の学生さんも読んでほしいです。

青砥先生: 私は、『三国志』(吉川英治著)や、『項羽と劉邦』(司馬遼太郎著)などの中国の歴史ものです。登場人物の器の大きさやそのスケールに感動しましたね。

熊谷館長: 『三国志』には様々な魅力的なキャラクターが登場しますが、そのなかで一番好きなキャラクターは誰でしょうか。

青砥先生: 諸葛亮です。やはり彼は特別な存在というか。相手をよむような能力が凄いなと。憧れの存在でしたね。

鈴木先生: 私は村上春樹の作品が好きです。彼は主人公を変えながら同じテーマを書き続けていてすごいと感じます。あと文体が凄く好き

で、この名詞にこの形容詞つけるかと思うほどユニークで、読む度に印象が変わることもあります。

熊谷館長: 特に印象に残っている表現等がありますか。

鈴木先生: 村上春樹は英語の訳本も書かれているためか、日本語の感覚だけでない英語的な感覚も言葉の使い方に現れているのが面白いですね。あと『羊をめぐる冒険』という作品がありまして、その登場人物の中に「羊男」という人がいます。その羊男のいる部屋にいく廊下があるんですけど、それがとても真っ暗で、辿り着くのがとても怖い、というシーンがあるんですね。それで私は今自転車で通勤しているんですけど、米子が暗すぎて。

一同 笑い

鈴木先生: このまま行くともしかしたら羊男に会うんじゃないかと思うくらい、街灯もなくてほんとに暗くて。

熊谷館長: 街灯をつけてくれるよう頼まなければなりませんね。次に、学生が本を読まなくなってきたといいますが、その理由はどうお考えですか。

青砥先生: 個人で好きな事を出来るっていうすごく便利な時代ですけど、本だけじゃなく、好きな事に対して熱中して何かをやる時間をつくっていないように感じますね。

渡邊先生: 読む学生と読まない学生に分かれているように思います。何が分けているのか考えてみると、幼少期の頃に受けた影響だと思い



青砥先生



座談会で司会をする熊谷図書館長

ます。本を読む楽しさを知る前にスマホを知ってしまうのは問題な気がします。

鈴木先生: 私もスマホが時間をとっていると思います。高専に来て皆がスマホと対話していてすごくびっくりしました。スマホに時間を取られすぎていて、本に向く時間すらなさそうに思います。

熊谷館長: 最後に学生の皆さんにメッセージをお願いします。

渡邊先生: 先日物質工学科の学生達に自己紹介カードを書かせたら『研究者になりたい』や『自分が科学を進歩させる』といったものが多くて。野心を持って学ぶというのはすごく大事な事だと思うんですよ。『少年少女よ、野心的であれ!』をメッセージにしたいと思います。

青砥先生: 学生時代というのは、自由になる時間が多くあります。その時間をいかに使っていくのかがポイントです。何でもいから興味を持ってオタクになってみて下さい。

鈴木先生: 1人の人が経験できる事ってすごく少ないと思うんですよ。でも、本を読んでいたら想像は出来るじゃないですか。そういったシミュレーションが、何かあった時に正しい選択をすることにも繋がると思うんです。自分の引き出しを増やして魅力的な人間になるためにも、本を読むことは良い事だと思いますよ。

熊谷館長: 学生にとってもためになるお話が聞けたと思います。皆さん貴重な1時間ありがとうございました。

(平成27年4月17日 於 図書館2階創造ゼミナール室
記録・写真、建築学科 5年 石飛夏帆、古田彩花、森田里奈)

■読書感想文コンクール募集案内■

対 象 : 米子高専の学生

執筆期間 : 夏季休業

字 数 等 : B4縦書き原稿用紙(400字詰)5枚以内 自筆

締 切 : 10月2日(金)

提 出 先 : 各クラス図書委員が集めて担任へ(専攻科生は直接図書館まで)

審 査 員 : 各クラス担任、図書館長、図書館運営委員、国語科教員

表 彰 : 最優秀賞1編、優秀賞3編、佳作5編

賞状及び副賞として図書カードを贈呈

(最優秀賞15,000円相当、優秀賞10,000円相当、佳作5,000円相当)

表 彰 式 : 11月中(予定)

作品展示 : 優秀な作品は『としょぶらり』誌に掲載予定

新任教員おすすめの本

『三国志』 吉川英治著

教養教育科 青砥 正彦

私が吉川英治の「三国志」に出会ったのは高校1年の時です。当時、NHKで人形劇が放送されていたこともあり武将の名前くらいは知っていました。このコラムと同じように、先生の推薦本の1冊でもありました。この物語に登場する人物は人情に厚く、個性的で魅力にあふれています。中でも私のヒーローは諸葛亮孔明でした。どんなに不利な状況でも、周囲をよく観察し、環境を味方につけ、最大限の効果をもたらす、その明晰な分析力に憧れたものです。たとえ敵将であっても、相手の才能を愛し、礼を尽くし、何度裏切られても、本心から心服されるまで辛抱強く耐え忍んだりする姿に心が揺さぶられます。

今から1700年も前の話ですが、人と人、人と組織の関係の中で、何が大切で、どのように生きていくのかという、現代でも大切なことを教えてくれます。この本を読んでから周囲を見回せば、先生や友人、親、兄弟の見方が変わるかもしれません。

ここ、米子高専は才能に溢れ、個性豊かな先生方がたくさんいます。生涯の師と仰げる先生との出会いがあるでしょう。また、学生同士でも義兄弟となる友との出会いがあるでしょう。本との出会いによってもそんな出会いが広がり、充実した人生となることを期待します。

『人を動かす』 D.カーネギー著

教養教育科 渡邊 健

私は米子高専に来る以前、専門学校でスピーチの授業を教えていたことがあり、そのとき教材に使っていたのがこの本でした。米国ではスピーチ（正確にはパブリック・スピーキング）教室のデール・カーネギー・コースと言えば知らない者はおらず、カーネギーの三部作、『人を動かす』『道は開ける』『話し方入門』（いずれも創元社）は、聖書に次ぐ売上げを記録しているそうです。

私は、授業で取り上げる必要から、カーネギー関連の本はまとめて読み、『人を動かす』『道は開ける』については、原書でも読みました。私が『人を動かす』の中で特に印象に残っている言葉を、二つ紹介します。

「もし成功に何か秘訣があるとするなら、それは他人のものの見方を理解し、自分の観点と同様に他人の観点からも物事を見ることのできる能力にある。」

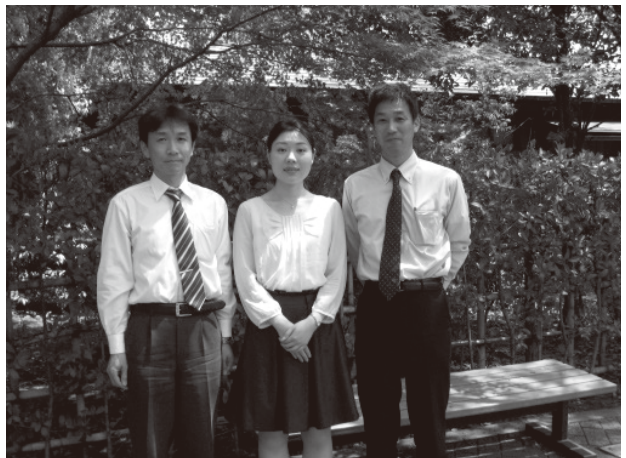
「人を扱うときには、次のことを心に留めておこう。我々は論理の生き物を扱っているのではなく、感情の生き物、それも偏見に満ち、プライドと虚栄心によって動機づけられた生き物を扱っていることを忘れてはならない。」

私がスピーチの授業をしていた頃、この本には人を引きつける力があり、感化力・教育力があることを実感しました。若い学生の皆さんにも、ぜひ読んでいただきたい本です。

『舟を編む』 三浦しをん著

教養教育科 鈴木 章子

毎日何気なく使っている言葉。気持ちを伝え合うため、思考するため、身の回りの世界を把握するため、言葉に文化をのせて後世へ伝え続けるため。「舟を編む」は、脈々と受け継がれ変化していく、まさに生き物である「言葉」に魅せられた人々の物語です。ある出版社の辞書編集部で始まった新しい辞書『大渡海』の制作を、15年間にわたり追った本作は、辞書編集の実際をかなり忠実に描いているように思います。言葉に対する感覚を常に研ぎ澄まし、疑問が浮かべばすぐに数冊の辞書を比べよりよい定義を考え、面白い用例に出会えばすぐに用例採集カードに書き入れる—そのような辞書編集に関わる全ての人の言葉に対する愛着と熱い思いが、辞書の一つ一つの項目に込められているのです。私たち言葉の使用者が疑問に思うであろうこと（例えば、「天にも昇る気持ち」とは言うが、なぜ「天にも上がる気持ち」とは言わないのか?）に対して検討に検討を重ねて、あの短い簡潔な定義と用例の中にその答えとなるような文言を入れておいてくれるのです。みなさんもこの本を読んだら、必ずや辞書を一番身近な友として置いておきたくなるでしょう。自分と言葉との関係を見直す機会を提供する良書です。



2014年度学生表彰文化系クラブ等活動の紹介

放送部

顧問 物質工学科 田中 晋

放送部では、日々、本校やその周囲の話題を取り扱ったラジオ、テレビ番組さらには映画などを制作し、番組制作技術やアナウンス技術の向上を目指して活動しています。

【昨年度の実績】

平成26年度の主な実績を紹介します。「 」内は受賞作品名です。

- ①第31回NHK全国大学放送コンテスト(大学Nコン) 映像CM部門 2位・3位(82本中)「大人講座」「途中下車の二人」
同 ラジオドラマ部門 2位(100本中)「大学生(偽)」
- ②第62回NHK杯全国高校放送コンテスト(高校Nコン) 創作ラジオドラマ部門 入選(6位・758本中)「雪が降っていますノー」
- ③NPO法人映画甲子園主催eiga worldcup2014 自由部門(応募総数104本) 最優秀女子助演賞(1位)、
優秀女子演技賞、優秀編集賞、優秀監督賞(何れも2位)
「紙上の空寂」
同 地域部門 日本ケーブルテレビ連盟賞(4位・78本中)
「香川県+鳥取県=香取村」

①の大学Nコンは初出場での受賞です。5年生の熱意が実ってこれらを果たすことができました。最終審査である本選は、11月末に京都市で開催され、応募した4作品のうち3作品が上位入賞という好成績を得ることができました。4、5年生は、就職活動やインターシップで忙しい夏休みに頑張って制作に励んだ甲斐があったようです。

②の高校Nコンは、全国1,861校が参加する大規模な大会で、我々は5年連続入賞(平成24年度には準優勝)しています。入選作は、平成23年の山陰豪雪を舞台に家族の絆を描いたもので、真夏の大会会場に雪道を踏みしめる音が響いたことも効果的だったようです。大会では、全国の高校生と交流を図ることもでき、学生達は大きな刺激を受けました。今年度の県大会でも8年連続となる全国進出を決め、全国大会に向けて準備を進めているところです。

③のeiga worldcupは、一昨年度まで映画甲子園と呼ばれていた大会です。夏休み期間を利用して制作した映画を応募しました。10月に行われた自由部門一次審査員の方々からは大変好評で一番人気(?)でしたが、最終審査では最優秀作品賞を逃してしまいました。ちなみに、一昨年度は、準優勝に相当する優秀作品賞をいただいています。結果発表・表彰式は11月に早稲田大学で開催され、部員達は、プロの映画人の方々とお話しさせていただいたり、活発な活動をする高校生と情報交換することができました。

上記の他にも、短編映画「トライアングルSHR」が第13回JCF学生映画祭in山形にて最終上映作品3本の内の1本に選出されたり、よなご映像フェスティバルにて準グランプリを、OKAYAMAショートムービー祭でフラスコ賞(4位)を受賞しています。また、中海テレビ放送主催パブリックアクセス大賞では、準グランプリを受賞しました。これは一昨年受賞したグランプリに引き続き2年連続での入賞です。



【日々の活動】

中心となる活動は、部員による企画・立案によるラジオ番組「米子高専エンジン×ピープル」の制作です。米子を中心に鳥取県西部地区で放送されているコミュニティFM局DARAZ FMで放送をしています(放送時間等は下記を参照ください)。番組では、米子高専やその周辺の話を取り上げており、高専の学生教職員の方々にも多数出演していただいています。また、不定期ですが、中海テレビ放送のパブリック・アクセス・チャンネル331chを利用して、テレビ番組「米子高専Cross Over A」を放送しています。こちらでは学園祭などの学校行事の様子や放送部の映像作品を流しています。

現在の活動拠点は、白砂会館2階3・4研修室です。周囲を音楽系のクラブに囲まれて賑やかな環境ではありませんが、簡易防音室でしのごながら録音作業などをこなしています。部員は、アナウンス、撮影、編集、企画構成、広報など自分に向けた分野にそれぞれ力を入れて活動をしています。役者として出演し、演技がメキメキ上達している部員もいます。ビデオカメラやマイクなどは業務仕様の本格的なものを使用し、映像・音声編集用のPCも4台設置するなど機器についても充実しています。

放送部制作のラジオ番組

米子高専

エンジン×ピープル

毎月第1日曜22:00~22:30(再放送は翌日の同時間)
DARAZ FM 79.8 MHzにて絶賛放送中です!
ネット(Simul Radio, Listen Radio)でも聴取可!
詳しくは → <http://www.yonago-k.ac.jp/broadcast/>

2014年度学生表彰文化系クラブ等活動の紹介

【部員のコメント】

電気情報工学科 3年 平井 悠翔

放送部に入ってよかったことは、音声などの編集作業をマスターできたことです。もし放送部に入っていなかったら、しなかった体験だと思います。また、放送部ではあまり上下関係がないので、寮での生活とは全然違った上級生との関わり方ができて楽しいと思います。大会前は忙しいですが、秋から冬にかけては大会がほとんどなのでまったりと過ごすこともできる部活です。

物質工学科 3年 長谷川真梨菜

放送部は校内放送こそしていませんが、校外活動が活発で、他県の放送部やいろんなクリエイターの方と知り合うことができます。自分の知識の幅や交流の輪がぐんと広がりとても楽しいです。情報を受け取る側から、情報を発信する側になるのは、とてもやりがいと面白みがあります。大会やコンテストがあれば、取材でどこへでも走り回っているの、ワイワイガヤガヤと騒がしい毎日を過ごしています。おまけに個性豊かな人だらけなので、退屈する事はありません。

【顧問より】

放送部は「部員が沢山いて、やりたいことができない」という噂を聞きますが、かなり部員が減りました！1年生部員も4名しかいません。機材の数に限りはありますが、フル稼働したことはまだ一度もありませんので、まだまだ余裕があります。やりたいことができる部活動です。みな、素人状態から作品づくりをはじめています。興味のある方は、是非とも放送部に来てみてください。文化系クラブなので、文系と思われがちですが、正確に機材を使ったり、論理的に番組の構成を考えたりと将来理系で役立つノウハウがぎっしり詰まった部活動です。



新聞を活用した取組みの紹介

教養教育科(社会) 加藤 博和

1) 第5回「いっしょに読もう! 新聞コンクール」における4名の学生の入賞

日本新聞協会が主催した第5回「いっしょに読もう! 新聞コンクール」において、下記の4名の学生が入賞した(学年は入賞時のもの)。

優秀賞: 長谷川 仁(電子制御工学科 4年)

奨励賞: 小笠原 宙樹(物質工学科 4年)、

高田 知里(物質工学科 3年)、

中村 佳世(建築学科 3年)

3年生は「地理」の授業において、4年生は「社会科学Ⅲ」の課題として、それぞれ取り組んだ。

最終審査会は委員11名(委員長: 影山清四郎・日本

NIE学会名誉会員)により2014年10月25日に実施され、全国の小中高校・高専からの35,375編の応募作品の中から、優秀賞30編のうちの1編に長谷川君の作品が入賞した。2014年5月3日の日本海新聞朝刊に掲載された女優・常盤貴子さん執筆の連載記事を読んで、母親に意見を聞き、自分の感想・意見をまとめたもので、入賞後、常盤さん本人からメッセージも寄せられた

(http://nie.jp/news/2014/12/15_004582.htmlに常盤さんからのメッセージが紹介されている)。

奨励賞は全国で121編が選ばれ、1校としては最多となる3編が入選した。また学校奨励賞(309校中83校)も受賞した。



【長谷川仁君の作品】

[用いた記事] まばたきのおもひで 常盤貴子 1 自己紹介は嫌いです (日本海新聞2014年5月3日付朝刊)

(1)この記事を選んだ理由と、記事を読んで思ったこと、考えたこと

僕は自己紹介が嫌いだ。18年間の自己紹介人生で興味をひくような自己紹介を聞いたことがないし、したこともない。だから、この見出しを見たとき驚いた。僕と同じ考えを持っている人がいるということにもだが、この記事を書いた人が「大人」ということだ。僕のような考えは子どもっぽい意見だと思っていたので大人が同じ意見を持っていてうれしかった。この感動や考えを皆にも味わってもらいたいと思い、この記事を選んだ。

(2)家族や友だちなどの意見

母は「自己紹介なんて行事なんだから淡々とこなしたらいいのよ」と言っていた。自己紹介なんて、ほとんどの人は名前や出身地などの事務的な情報以外は、聞いてないから気楽にするものよ、と語っていた。また「社会には自己紹介のような納得のいかないことも多いから折り合いをつけていかないといけないよ」とのことだ。

(3)話し合った後のあなたの意見や提案・提言

僕は常盤さんの「『私はこういう人間です』と言葉で発した瞬間にそういう人であらなければいけなくなってしまう」という言葉が僕の好きな作家、辻村深月さんの「自分の言った言葉っていうのは、全部自分に返ってくる。返ってきて未来の自分を縛る。声は呪いになるんだよ」という言葉とかぶって、常盤さんも辻村さんと同じ感性を持っている!とうれしくなった。お二人とも大人になっても思春期の子の気持ちが分かるのが素晴らしいと感じた。世の中には「うそを付き合う面接」や「出るくいは打たれる学校」など納得のいかない慣習は多い。それで苦しんでいる人のためにそれら全てを変えることは難しく、母の言ったとおりどこかで折り合いをつけないといけないと思うが、その気持ちを共感してあげるだけで僕のように救われる人はいると思う。僕も今のこの気持ちを忘れずに、思春期の気持ちが分かる大人になりたい。

2)日本海新聞創刊130周年記念作文・論文コンテストでの受賞

新日本海新聞社が日本海新聞創刊130周年を記念して「こんな郷土(ふるさと)にしたい」をテーマに募集した作文・論文コンテストで、物質工学科の坂根すず香さんが論文の部・優秀賞を、また本校も学校賞を受賞した。

3年生の「地理」の授業の課題として、作品を応募した。坂根さんの論文は「住民の参加と協力によって地域活性化を実現してほしいと故郷を激励し、評価された」(『日本海新聞』2014年2月28日)もので、「私が望む故郷は、参加、協力、実現できる故郷。私も帰ってきたら地元の行事に参加して、多くの人と交流を深めたい。そして、皆にとって自慢の故郷を、皆で築き上げたい」と結んでいる。

作文に251点、論文に208点の応募があり、審査の結果、論文の部では、最優秀賞1点、優秀賞2点、佳作3点が選ばれた。



物質工学科5年
坂根すず香さん

3)「HAPPY NEWSキャンペーン」への応募

日本新聞協会の「HAPPY NEWSキャンペーン」に、4年生の「社会科学Ⅲ」の受講生の作品を応募した。2012年度は過去最多の15,935件の応募があった。

入選は逃したものの、高橋健太郎君(応募時・4年電子制御工学科)の作品が日本新聞協会編『心がまかばかするニュースvol.8』(エフジー武蔵、2013年11月)に入選作品25件を含む68件のうちの1件として収録されている。

皆さん、新聞を開いてみてください(図書館新聞コーナーに全国紙と山陰中央新報、日本海新聞等が配架されています)。



図書館で新聞を読む学生

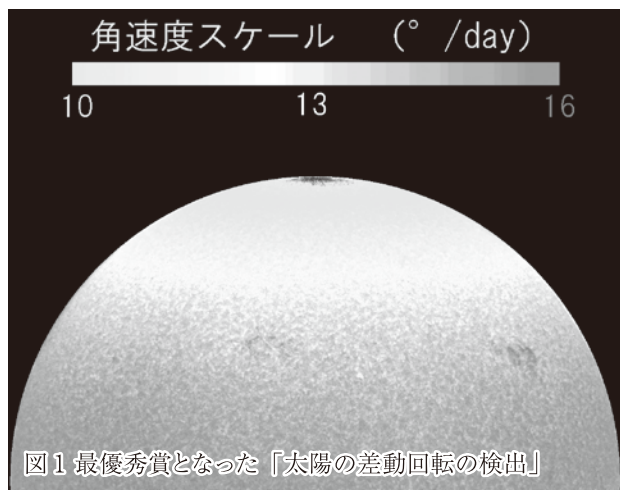
2014年度学生表彰文化系クラブ等活動の紹介

科学部

顧問 教養教育科 竹内 彰継

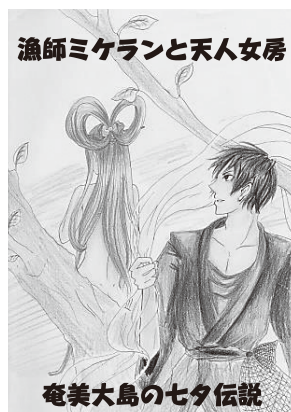
科学部は天文学関係の活動を行っています。活動の三本柱は、①日本天文学会ジュニアセッションなどでの研究発表、②天文雑誌などの天体写真コンテストへの作品応募、③近隣の小学校などでの天体観望会の開催です。これらのうち①については彦名通信で何度も紹介していますので、ここでは②と③について紹介したいと思います。

科学部は主に「天文ガイド」のコンテストに応募しています。天文ガイドとは誠文堂新光社が発行しているアマチュア天文家向けの月刊誌で50年の歴史を持つ権威ある雑誌です。このコンテストは天体画像処理の達人(超人?)たちの作品発表の場と化しており、毎月美しい天体写真でにぎわっています。日本のアマチュア天文家のレベルは世界的にも非常に高く、このような達人たちとまともに戦ったのでは到底勝ち目はありません。そこで、科学部では天体物理現象が目に見えるような作品を常に制作しています(図1)。幸い、天体物理に関する造詣が深い方が選者を務めていることもあって、平成27年3月までに22回も入選しました。これだけ入選した学校は大学まで含めて本校だけです。特に、平成21年6月号の最優秀賞受賞、平成17年2月号と8月号の18歳以下部門一席受賞は特筆に値します。



科学部は近隣の小学校などでの天体観望会も行っています。観望会では、本校に寄贈された25cm反射鏡を用いたドブソニアン望遠鏡を使っています(図2)。また、最近は単に天体を見てもらうだけでなく、部員に星座物語の絵を描いてもらい、パワーポイントで「電子」紙芝居にして楽しんでもらっています(図3)。

ところで、最近では本校学生にも天体現象を見てもらう機会を作るように努めています(図4)。図書館も新しくなりましたので、広い前庭で天体観望会を開催したく思っています。そのときはぜひ観望にいらしてください。



文化系クラブ活動・同好会の紹介

〈スターリングエンジン部〉

スターリング冷凍機7年連続日本一、3年連続二冠達成
スターリングエンジン部は、現在26人の部員が在籍するものづくり部活動で、エンジンや冷凍機を自主製作します。毎年、技術力やアイデアを競う全国大会「スターリングテクノラリー」（企業や大学のチームも出場）に出場し、上位入賞を目指しています。現在、3ボルト（単三電池2本）冷凍機部門で7年連続、100ボルト（家庭用100V電源）冷凍機部門では3年連続日本一を達成中です。日本一を目指し続けるのは大変ですが、部員の人達と共に設計図面や工作機械と格闘する毎日を楽しんでいます。

スターリングエンジン部 部長 機械工学科4年 影岡 翔太



第18回スターリングエンジンテクノラリー授賞式後
(平成26年11月)

〈お絵描き創作同好会〉

私たちお絵描き創作同好会は週に1～2回、建築学科3年の教室などで活動しています。主な活動内容は、イラストなどの作品を製作して展示・発表をすることです。昨年の高専祭や文化発表会でも展示を行いました。

活動中は一人で集中して絵を描いたり、絵のテーマをみんなで統一して一緒に絵を描いたり、互いの描いた絵を見せ合ったりして、楽しく絵を描いています。これからは絵だけでなく、造形などの創作や、みなさんにもっと見てもらえるように展示にも力を入れたいと思います。連絡先は、建築学科 3年 勝部桃子まで。



最近制作したイラスト作品など

〈書道部〉

書道部は毎週火曜日に白砂会館(学食のある建物)で活動しています。

書道は静かな部屋で黙々と書いているイメージがあるかもしれませんが、我が書道部は毎日ワイワイ楽しく書いています！なので部員同士みんな仲がいです。

活動内容は作品展に出品するために2尺×6尺(60cm×180cm)の紙に書いたかと思えば高専祭に出すために色紙の大きさに書くこともあります。筆と墨でなら絵を描くこともあります。ぜひ見学に来てみてください！

活動日時 毎週火曜日(金曜日は自主練) 4:20～ 白砂会館2階 第一研修室 連絡先 ynct.shodo@gmail.com または顧問 電気情報工学科 奥雲まで



〈B&C研究同好会〉

本同好会は物質工学科の学生有志が放課後や休日に独自のテーマで研究を進め、成果を外部発表しています。具体的には、身近な素材をターゲットとして、化学・生物的手法により推進する応用研究を展開中です。研究テーマに関する構想決め・提案は国内最高水準を目指し、研究のメソッドは高校生レベルで実施可能な実験系を独自開発して、それらを組み合わせることにより競争力の高い成果を創り上げます。近年は国内の発表会参加だけではなく世界進出を目標としており、文科省のアメリカ派遣団や国際科学オリンピック日本代表に選出される学生を輩出しています。



「益川塾第7回シンポジウム」で益川塾頭賞受賞(平成26年11月)
川口淳一郎博士(左)、代表の物質工学科4年 田原早央莉さん(中央)、
益川敏英博士(右、2008年度 ノーベル物理学賞 受賞者)

専攻科生の推薦本を交流プラザに展示

授業担当 教養教育科 長福 香菜

専攻科では、選択科目の一つとして「日本語表現法」の授業を行っています。この授業では、「文字・音声言語を用いて、自分の考えを的確に、かつ説得的に述べる」ことを目標としており、その一環として自分がおススメする本のPOPを、専攻科1年生が作成しました。

決められた紙幅で、どのような言葉を使って表現すればその本の魅力を伝えることができるのか。自分の

言葉で効果的に表現することの難しさを実感しながら、見た人が実際に本を読みたくなるような、手に取りたくなるようなPOPを目指しました。

まずは、ぜひ手作りのPOPを読んでみて下さい。そして、気になったらぜひその本に触れてみて下さい。きっと学生らの温かい気持ちが伝わるとと思います。



POPを作成した専攻科1年生

学生図書委員一覧

平成27年度学生図書委員一覧

【委員長】 渡邊 苑瑛(前期)／平井 悠翔(後期) 【副委員長】 足立 香織、山下 海誓(前期)／岡田 仁子(後期)

学年	機械工学科	電気情報工学科	電子制御工学科	物質工学科	建築学科
1	加藤 陸生	三王寺 克仁	岩田 将貴	松田 稜哉	深田 唯花
2	山下 海誓	池口 純平	山根 仁	角田 涼華	岡田 仁子
3	渡邊 遼平	平井 悠翔	林 大地	渡邊 苑瑛	中原 優
4	恩田 晃匠	飯田 駿弥	山根 匡翔	田中 佑季	足立 香織
5	柳田 賢佑	寺本 誠司	松本 宏貴	西田 知央	河本 和希

図書館統計

1.平成26年度 学生利用冊数ベスト10

順位	貸出回数	書名	著者
1位	28	分析化学実験 / 2版	内海喩 [ほか] 著
2位	26	Study guide and solutions manual for McMurry and Simanek's fundamentals of organic chemistry / 6th ed.	Susan McMurry.
3位	25	分析化学実験	阿部光雄編著
4位	22	機器分析のてびき 1 / 2版	岡原光男 [ほか] 著
5位	19	有機化学実験	フィーザー, ウィリアムソン [著]; 磯部稔 [ほか] 共訳
6位	17	図解とフローチャートによる定量分析 / 2版	浅田誠一, 内出茂, 小林基宏著
7位	16	機器分析入門	日本分析化学会九州支部編
8位	15	中世騎士物語	ブルフィンチ作; 野上弥生子訳
8位	15	オペアンプの基礎マスター	堀桂太郎著
10位	14	図解PICマイコン実習: ゼロからわかる電子制御	堀桂太郎著
10位	14	よくある質問NMRスペクトルの読み方	福土江里著

2.平成26年度 利用状況

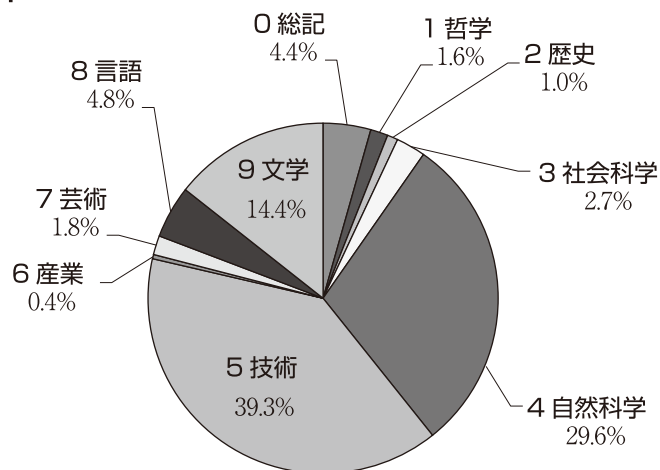
開館日数:244日

区分	学生	教職員	校外者	合計
学生・教職員数	1,059人	120人	45人	1,224人
入館者数	61,477人		1,598人	63,075人
図書貸出者数	4,238人	476人	171人	4,885人
図書貸出冊数	8,746冊	1,800冊	436冊	10,982冊

3.平成26年度 NDC分類別貸出冊数・貸出率

分類	貸出冊数
0 総記	483
1 哲学	177
2 歴史	107
3 社会科学	298
4 自然科学	3,249
5 技術	4,321
6 産業	43
7 芸術	193
8 言語	533
9 文学	1,578
合計	10,982

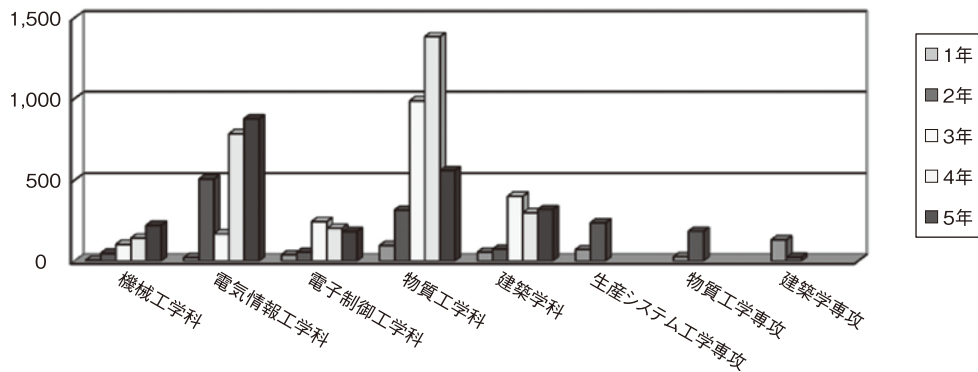
順位	分類	貸出率(%)
1位	5 技術	39.3%
2位	4 自然科学	29.6%
3位	9 文学	14.4%
4位	8 言語	4.8%
5位	0 総記	4.4%
6位	3 社会科学	2.7%
7位	7 芸術	1.8%
8位	1 哲学	1.6%
9位	2 歴史	1.0%
10位	6 産業	0.4%
合計		100.0%



4.平成26年度 学年・学科別貸出冊数

本科・専攻科

学年	本 科					専攻科			合 計
	機械工学科	電気情報工学科	電子制御工学科	物質工学科	建築学科	生産システム工学専攻	物質工学専攻	建築学専攻	
1年	5	21	39	96	54	70	26	131	442
2年	48	506	54	315	73	236	184	24	1,440
3年	103	169	244	986	400				1,902
4年	142	782	202	1,382	298				2,806
5年	221	875	183	559	318				2,156
合計	519	2,353	722	3,338	1,143	306	210	155	8,746



平成27年度 米子高専 文化セミナー

第1回

「アインシュタインと理論物理」

5月24日(日)
10:00~12:00

米子工業高等専門学校 教養教育科 川邊 博
会場: 中海テレビ放送センタービル1階会議室

20世紀最も偉大な物理学者といわれるアインシュタイン。彼の手による相対性理論は、「美しい」理論に自然法則が従うという物理における大発見でした。これは、それ以前の自然現象をまとめる物理から、理論の「美しさ」を根拠に未知のものを予測する理論物理への大きな転換をもたらしました。とりわけ思索好きな日本人の肌にあったのか、戦後、湯川・朝永が素粒子論でノーベル賞を受賞して以来、理論物理は日本の得意分野となっており、2008年ノーベル物理学賞の小林・益川理論もその大きな成果の一つです。その原点となったアインシュタインの生き方に迫り、理論物理の魅力を紹介します。

第2回

「アメリカポピュラー音楽のJ-POPへの影響と音楽全般の発展について」

6月21日(日)
10:00~12:00

米子工業高等専門学校 教養教育科 酒井康宏
会場: 米子高専図書館2階アカデミックシアター

いわゆるJ-POPという言葉が聞かれるようになったのは、この数年ですが、日本には、ポピュラー音楽というものは元々なく、現在J-POPというのは、他の国から、特にアメリカ合衆国やヨーロッパのポピュラー音楽の影響を大いに受けている日本音楽のことです。J-POPは、リズムカルで、躍動的、しかも乗りの良いメロディーラインが特徴です。

いわゆるJ-POPを語るには、アメリカポピュラー音楽の形成と発展の歴史を知らなければなりません。アメリカ合衆国は移民の国で、ヨーロッパを中心に様々な民族がそれぞれの民族音楽を持ち寄り、即興で音楽を作り上げたものがアメリカポピュラー音楽の原点と呼ばれるものからです。特にアイルランド移民が持ち込んだケルト音楽と、アフリカ黒人が持ち込んだブルースがどのように結びついて発展していくかを楽器を演奏しながら考察しようと思います。

第3回

「魅力あふれるイギリスの交響曲」

10月25日(日)
10:00~12:00

米子工業高等専門学校 建築学科 山田祐司
会場: 米子高専図書館2階アカデミックシアター

クラシック音楽の愛好家は残念ながら少数派ですが、その中でもさらにマイナーな領域に位置するイギリスの作曲家による交響曲の魅力を知ってもらおうというのがこのセミナーの目的です。一般的な音楽史の中で交響曲といえばドイツ、オーストリアの作曲家が主流です。そしてその周辺の国々の作曲家としてはロシア、東欧、北欧の作曲家が有名です。ここにイギリスの作曲家の名前はまったく登場しませんが、実は多くの作曲家が多数の魅力的な交響曲を書いています。その中でエルガー、ヴォーン・ウィリアムズなど19世紀から20世紀にかけての主な作曲家8人の交響曲の一部を時代順に聴いていただき、魅力の一端を味わっていただきたいと思います。

第4回

「ゲームの必勝法を見つけよう！」

11月29日(日)
10:00~12:00

米子工業高等専門学校 教養教育科 大庭経史
会場: 中海テレビ放送センタービル1階会議室

二人で行うゲームはたくさんあります。シンプルなものでは「三目並べ」や「あやとり」などが、複雑なルールでは「オセロ」や「将棋」などもありますね。もちろん「じゃんけん」もそうです。

今回のセミナーでは、そのような二人で行うゲームの中でも、ルールが単純で道具をほとんど使わず、そして(すぐには気付かないけれど)難しい必勝法があるゲームについて、その必勝法を皆さんと一緒に考えたいと思います。

ゲームの必勝法を見つけるためにはそのゲームの本質・構造をつかむ必要があります。逆に言えば、必勝法を知ることでそのゲームの構造をつかむことができるのです。ゲームを通して「本質をつかむ目」を養ってみませんか。

学生諸君へ「読書会」についてお知らせ

■日時／	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回
	7月23日(木)	8月27日(木)	9月28日(月)	11月12日(木)	1月28日(木)

■場所／図書館交流プラザ ■時間／放課後15:30~(90分程度) ■定員20名程度(先着順とします)